

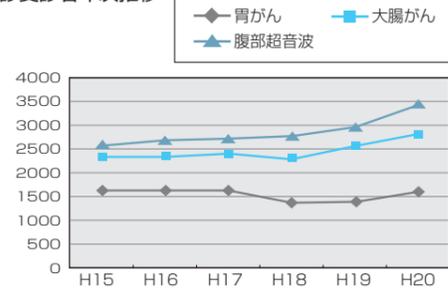


インフルエンザに注意!

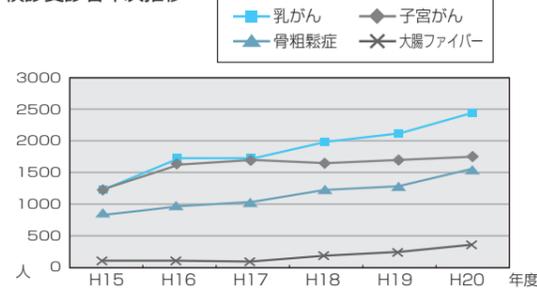
1 月末現在、インフルエンザが流行しています。予防として、帰宅後は手洗い・うがいの励行、外出時はマスクの着用、できるだけ人が集まるような場所を避ける、インフルエンザのような症状がある場合は早めに受診し、人が集まるような場所に行かないよう心がけましょう。またウイルスは乾燥した空気中で増えます。適度な湿度を保つようにしましょう。

がん検診を受ける人は、次のとおり年々増えています。

検診受診者年次推移



検診受診者年次推移



子宮がん・乳がん検診は年度途中です。

がん複合検診の申込方法と受け方

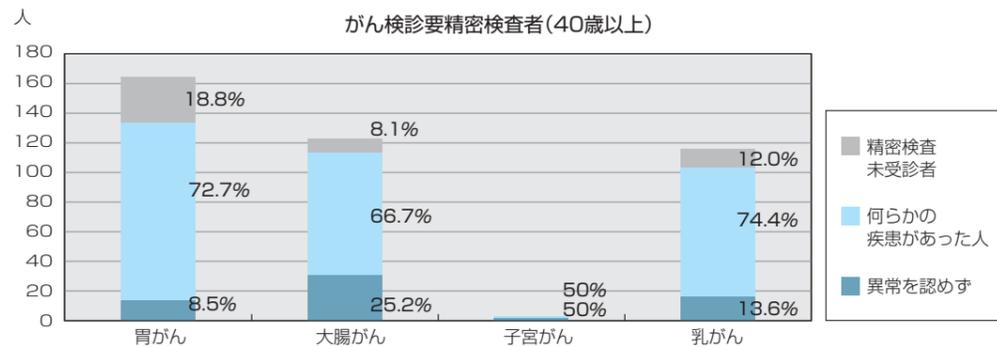
- 2月に「がん複合検診申込票」を30歳以上の人がいる世帯に郵送
- 「がん複合検診申込票」の希望する検診項目に○をつけ、3月6日までに各庁舎・各支所に提出
- 「がん複合検診」を申し込みされた人に、検診の2～3週間前に問診票を配布



*がん複合検診は9～10月中の19日間、大腸ファイバー検診は6月頃実施予定です。
*大腸ファイバー検診は、事前説明会を検診の2～3週間前に実施します。

●「がん複合検診申込票」が届いていない人(転入者など)は、西合志庁舎健康推進班にご連絡ください。(以前、「がん複合検診申込票」を不要とされた世帯には申込票を郵送していません。)

平成19年度がん検診を受けられた人のうち、40歳以上の人の精密検診受診状況等をみると...



40歳以上の受診内容内訳	胃がん検診	大腸がん検診	子宮がん検診	乳がん検診
受診者数	1,289人	2,272人	1,697人	1,796人
要精検率	12.8%	5.4%	0.1%	6.5%

精密検査の対象となった人のうち受診されていない人が、10～20%前後おられます。がん検診で最終的にがんと診断される人はごくわずかですが、「精密検査が必要」と判定されたらできるだけ早く検診をうけていただくようお願いします。

がん検診のメリットについて



メリット1 救命

最大のメリットは、早期発見・早期治療による救命の効果です。

メリット2 早期発見

早期のがんを発見できるため、治せる可能性は非常に高く、治療も軽いものです。

メリット3 防止

がん以外の病気も見つけることができ、治療に結びつけられます。

異常を早期発見するためにも、ぜひがん検診を受けてみませんか?

今回実施するがん検診の内容

腹部超音波検査

超音波で、肝臓、胆のう、胆管、すい臓、脾臓、腎臓、腹部大動脈などみます。胆のう結石・胆のうポリープ・のう胞・腎結石・肝腫瘍・脂肪肝などたくさんの変化が見つかりますが、心配のいらないものもあります。

がん複合検診では、さまざまな検診を一度(2時間程度)にでき、各公共施設で検診車で実施します。対象者は30歳以上です。(検診によって異なりますのでご注意ください。)詳細は、検診申込書と同封のチラシをご覧ください。



子宮がん検診

子宮頸部(子宮の入り口)を調べます。内診・細胞診(綿棒でこすり取って異型細胞がないかを調べます。)をします。頸管ポリープ(良性のイボがほとんど)や膣炎などがみつかります。

胃がん検診

胃のレントゲン撮影(胃のバリウム検査)をして、がん・潰瘍・ポリープ・胃炎などの変化をみます。

大腸がん検診

検査は便を2日間採取して、血液中のヘモグロビンに反応する試薬を使って行ないます。出血が認められなければ陰性、陽性なら上部・下部消化管のいずれかで出血をともなう病気の可能性があります。

骨粗しょう症検診

前腕部をエックス線で測定します。骨の密度を調べます。

乳房超音波とマンモグラフィー

マンモグラフィーは、乳房を2枚の板で挟んでX線をとる検査です。触診では見つからないような小さながんが見つかることがあります。超音波検査は、しこりががんであるかどうかや、病変の広がりなどを診断するのに有用です。がん検診の指針ではマンモグラフィーは2年に一度でよいといわれています。30歳代は乳腺密度が高く、マンモグラフィーの有効性が期待できないため乳房超音波検査をお勧めします。